

16 根室市水産研究所

根室市は安定した水産資源の確保を目的に、増養殖事業や資源管理型漁業を積極的に推進しておりますが、同時に水産研究所において、根室を代表する有用海産生物の基礎的研究を行い、種苗生産技術の確立による沿岸資源の増大を目指しております。

特に根室の特産物を代表するハナサキガニは、平成9年から平成12年までの4ヶ年実施された基礎研究、さらに平成13年から平成15年までの3ヶ年実施された完全養殖に向けた飼育試験など、7ヶ年にわたり、ハナサキガニの人工種苗に関する飼育実証試験を実施しております。現在も、将来の大量種苗生産を目指した、効率的でより安定した種苗生産を目的とした飼育環境の条件を確立する試験に取り組んでおります。

また、ヤナギダコも主要な水産物であります。近年、その漁獲が不安定であり、生態や繁殖についても不明な部分が多いため、的確な資源増大対策が求められています。当施設では、平成22年度より産学官連携研究開発事業として、東海大学海洋学部の持つ増養殖に関わるノウハウと根室市水産研究所の種苗生産技術により、ヤナギダコの生態や資源増大に関する基礎研究に取り組み、互恵的な協力関係の発展とヤナギダコ資源の増大に向けた共同研究を開始しております。

(1) 施設の概要

施設名	根室市水産研究所	敷地面積	5,557.32 m ²
所在地	根室市温根元 168 番地	建物面積	延面積 1,099.19 m ²
総事業費	687,839 千円		（研究所 1,041.69 m ² ）
竣工	平成 8 年 9 月 5 日		温室 31.50 m ² ポンプ室 26.00 m ²

(2) 設備の概要

取水	海水濾過装置		
	・一次濾過装置	2 基	8t/h
	・二次濾過装置	2 基	7t/h
水槽	・精密濾過装置	1 基	2.5t/h (紫外線滅菌装置付)
	・大型丸底水槽	4 基	500 ㍓
	・丸底孵化水槽	10 基	120 ㍓
	・微細藻類等水槽	15 基	100 ㍓
	・FRP水槽 (a)	12 基	2,000 ㍓
	・FRP水槽 (b)	6 基	2,200 ㍓
	・FRP水槽 (c)	4 基	1,500 ㍓
	・アクリル水槽(a)	1 基	1,700 ㍓
・アクリル水槽(b)	2 基	500 ㍓	
特殊空調	特殊空調室		
	・恒温室	3 室	(実験室・培養室・低温室)

(3) 研究の概要

① ハナサキガニの種苗生産試験

ハナサキガニ種苗生産の基礎技術は、ほぼ確立したところでありますが、しばしば発生する幼生の大量へい死によって、生残率は安定していないのが現状であります。これは飼育水の悪化や病原性細菌の発生が原因と考えられることから、安定した種苗生産技術を確立するために水質の浄化及び細菌の除去に優れた飼育方法の開発をすすめています。

② ハナサキガニの中間育成試験

ハナサキガニの中間育成は、海中で垂下飼育する方法を実施してきましたが、生残率は低迷しているのが現状であります。これは健苗性や共食いによる減耗が原因と考えられることから、当研究所では生残率向上を目指した陸上水槽での中間育成技術の確立をすすめています。

③ ヤナギダコの陸上産卵試験

根室市の主要水産物であるヤナギダコの資源増大に向け、未だ未解明な部分の多い生態等の知見を得るための基礎研究に取り組み、成熟したヤナギダコの雌親を水槽内において産卵させる技術の開発を行っております。

④ ヤナギダコの種苗生産試験

孵化したヤナギダコを飼育することで、これまで不明であった年齢や成長の解明に取り組んでおります。現在では、初期の稚ダコに有効な餌料の開発や飼育水温等の飼育環境の違いからくる成長や生残に与える影響など、種苗生産技術の確立を目指す上で重要な基礎データの蓄積をしています。

将来的には、得られた成果から効果的な資源増大に向けた展開方法を模索し、適正な資源管理型漁業を推進することでのヤナギダコ資源の維持・増大を目指します。

(4) 視察者数

根室市水産研究所では、学術的な視察はもちろんのこと、行政視察や学校教育における総合学習等の視察に対応した研究施設の案内、研究概要の説明などを随時行っております。

年度	区分		計	団体	人数
	大人	子供			
平成 21 年度	272	25	297	10団体	98
平成 22 年度	317	32	349	7団体	206
平成 23 年度	394	28	422	8団体	208
平成 24 年度	506	58	564	9団体	348
平成 25 年度	264	8	272	5団体	67
平成 26 年度	277	35	312	7団体	157

(※平成 26 年度数値は平成 27 年 2 月 28 日現在の実績値)